

通信制課程では、どうしても先生方と直接話す機会が限られてしまいます。

そこで生徒会では、先生方のことをもっと身近に感じ、お話しするきっかけにもなればと考え、インタビューを実施しました。高校時代の思い出や、教師という職業に対する思いをうかがう三つの質問を用意し、ご協力いただきました。(掲載に際し、ご回答は一部省略・編集しております。詳しくはご本人にお伺いしてみよう！)

☑調査項目/questionnaires:

Q①高校生の頃頑張っていたことは何ですか？

Q②担当している教科の先生になろうと思ったのは何故ですか？

Q③教員になって一番うれしかったことは何ですか？

前田和則先生

A1. 部活動です。バレーボール部に入って、県大会優勝を目指して練習をしていました。実際には、県ベスト8が最高成績でしたが、強いチームと対戦するのが楽しみでした。大学進学も当時日本一だった日本体育大学を目指して頑張り、入学することができました。

A2. 高校時代の体育の先生に憧れて高校の体育の教員になろうと思いました。人に教えることが好きで、誰に教えようかと思ったときに、高校生に教えたいと思いました。一生の仕事になることを考えると、自分の好きなことができるのが一番いいと思ったので教員を目指しました。

A3. 教え子が教員になって、「前田先生のような先生になりたい。」とか「先生に教えてもらえて良かった。」と言われた時です。

松本博子先生

A1. 部活(フィールドホッケー)と勉強の両立を頑張っていた。というよりおぼれかけていた。(笑)

A2. 大学時代にバックパッカーで海外をいろいろ放浪した。外から日本を見た時、日本人が日本を正しく発信する必要性を感じた。コミュニケーションで広がる世界の楽しさを少しでも伝えられたらと思った。

A3. 常に新しいエネルギーやパワーをもらえること。

辻田理紗先生

A1. とにかく部活動です。憧れの高校の吹奏楽部で濃い3年間を過ごしたことは、私の一生の宝物です。

でも、部活を続けたいなら勉強も必要だと教えて下さった先生がいて、勉強もしっかり頑張りました。

A2. 私は子どもの時、友達付き合いが上手でなく、クラスが苦手なことも多かったけど、音楽の授業や吹奏楽部では居場所を感じることができたからです。また音楽を通して日常が輝くことに感動し、それをずっと伝えていきたいと思ったからです。

A3. 松山東高校通信制で、尊敬できる先生方と、心優しくていつも前向きな生徒の皆さんと出会えたことです。

大川理恵先生

A1. 高校生の1,2年の頃、部活が終わったら、デッサンを習いに行っていました。帰宅がいつも10時すぎで、そこから宿題をして、次の日、学校に行くという生活を繰り返していたこと。

A2. 美術という教科が、わからないからできないという教科じゃないから。自分がやろうと思えば、無限大にできる教科だと思ったから。私自身にとっても、励みになるから。

A3. 偶然、道で教え子とすれ違った時に、「大川先生ですか?」と、声をかけてもらえたこと。何気ないことですが、わたしにとってはうれしかったです。

清家厚志先生

A1. 運動をしたくても、担任の先生の方針で運動部には入らせてもらえず、不完全燃焼でした。その代わり、図書館で「身長が2倍になると体重が2の3乗倍になること」、「魔方陣」などが載っているおもしろ雑学の本やアイザック・アシモフの「鋼鉄都市」などを読んでいました。

A2. 全ての教科の中で最も興味があって、得意だったからです。いつも、なぜ?を追究していたのかもしれない。

A3. 受け持っていたクラスが卒業するとき、色紙や花もいただきましたが、何よりも胸上げをしてくれたことです。びっくりしました。

都築克征教頭先生

A1. ボート部に所属し、毎日、海へ漕ぎ出していました。インターネットもなく、指導できる顧問の先生もいない環境の中で、強豪校を観察し、自分たちでも試行錯誤を重ねながら、もがき続ける日々でした。

A2. 青い空に浮かぶ白い雲、満天の星空、そして水平線に沈む夕日を眺めながら育ちました。そんな自然を大切にしたいという思いと、実験や観察の楽しさから、教科は迷わず理科を選びました。

A3. 悩みを抱えたある生徒の担任を、2年間務めました。ご両親やクラスメイト、スクールカウンセラーなど多くの支えのおかげで、その生徒は無事に卒業し、将来の夢に向かって歩み始めました。振り返ると、私自身も「一人じゃないんだ、がんばろう」と思った、嬉しい経験でした。

城隆文先生

A1. フィジカルトレーニング、読書、語学

A2. 好きか嫌いではなく、自分の能力を分析して、最も多くを伝えられる分野であると考えた。

A3. 他力→自力への変化に立ち会えたこと。顔つき、行動、言葉、姿勢が変化する。



ふれあい

松山東高等学校通信制課程

友垣の皆さん、前期試験お疲れさまでした。まだまだ暑さが残りますが、どうぞ体調に気をつけてお過ごしください。

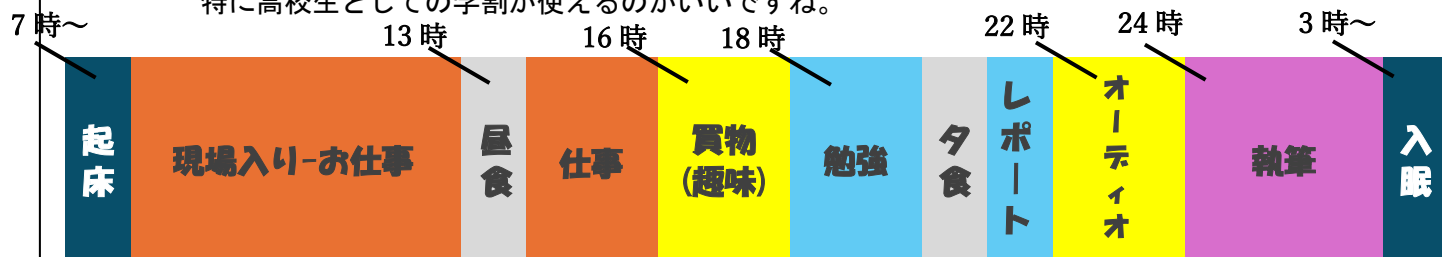
さて、本校の通信制課程には、年代や立場、ライフステージがさまざまな友垣が在籍しています。レポート学習が中心となるため、どうしても互いの生活を知る機会は限られてしまいますが、それぞれが自分の立場で頑張っていることと思います。

そこで今回、生徒会役員では皆さんの生活取材し、タイムテーブルの形式でまとめました。日々の過ごし方を知ることで、お互いの生活に思いをはせ、より尊重し合えるきっかけになれば幸いです。

☑ 友垣の一日(あくまで一例)/suggested lifestyle examples;

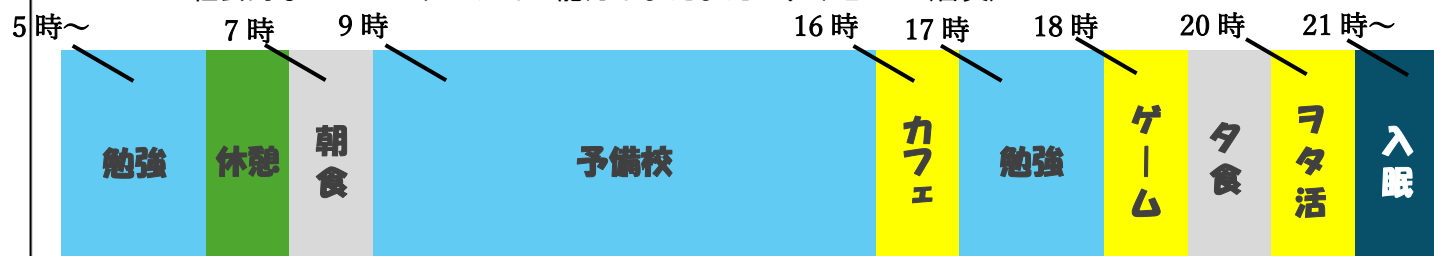
Yさんの場合

コメント：会社員、高校生、塾生、非営利団体の外部渉外役など沢山の役割があって面白いです。将来どの道に進むにしろ、今の年齢で色々経験できるのは後に役立つと考えています。特に高校生としての学割が使えるのがいいですね。



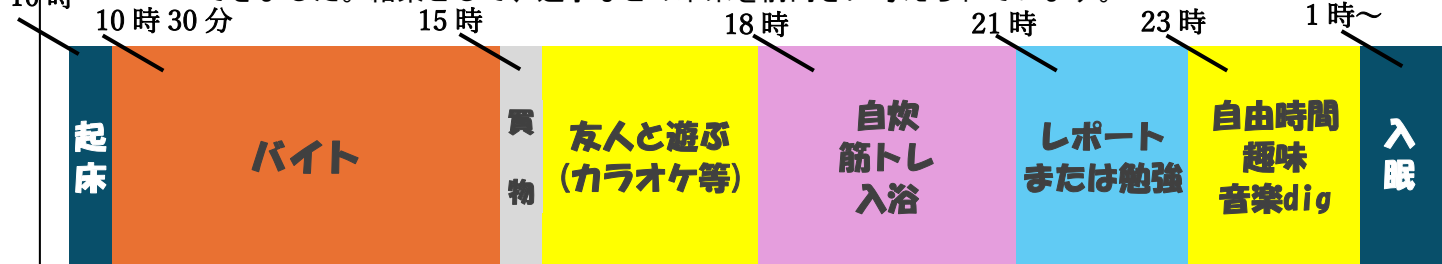
Mさんの場合

コメント：自分で目標と時間を管理して勉強を進めることで、自己管理能力が多少身についたように思う。社会的なコミュニケーション能力はまだまだですけど……(苦笑)



Aさんの場合

コメント：(以前と比べて)何もしない時間やゆっくりする時間、自分のことを考える時間が増え、心に余裕ができました。結果として、進学などの未来を前向きに考えられています。



編集後記：

いかがでしたでしょうか。取材を通して、我々も友垣の皆さんの多様な生活を知ることができました。自分や周りの人になじみのない立場や生活は想像が難しいものですから、こうしてお互いに紹介しあうことで、それぞれの苦労や頑張りがより親身に想像できるようになるものだと、改めて気づかされました。特に最後の方の「ゆっくり自分の時間を持つことで心に余裕ができた」というコメントからは、他人と比べて、より多くの時間を勉強や労働に使う生活だけが素晴らしいのではなく、ここに掲載できなかった読者の友垣の皆さん各々の生活にも、必ず何か輝いている点があるという結論が導けるような気がしています。